

30年以上にわたり、TDK野球部をバックアップ



佐藤 倉太郎 さん (鈴/62歳)

2年前にTDKを定年退職した佐藤さんは、30年以上にわたり野球部応援のプラスバンドを指揮し、応援曲を50曲以上作曲。TDK野球部の応援には欠かすことのできない存在となっています。現在、自宅スタジオ『SAKURA』にて音楽活動中です。

中学生のときに、町民運動会のアトラクションに出演していたTDKのバンドに魅せられて、歌手になるのが夢だった私は、バンドで歌いたい一心から、予定していた上京をやめてTDKに就職しました。バンドでは、歌い手のほか、ギターやアコースティック、サクソフォーンなどさまざまな楽器を演奏してきました。

先日、都市対抗野球大会で優勝した野球部の応援も応援団設立時の昭和43年から行い、今年で39年になります。現野球部監督の船木さんが投手として後楽園出場を果たした年に

「栄光は我に」、今年大活躍した野田投手が入社した年には、「GO GO TDK!」という応援曲が誕生しました。「栄光は我に」は、今年の大会でも1回と7回という大事な場面で流れ、26年間にわたる応援歌の代表的な曲となっています。「GO GO TDK!」は、9年前の東北大会の代表決定戦で、0対9の劣勢から大逆転し、代表の座を勝ち取った試合で、この曲のテンポのよいメロディーが流れ続けた思い出深い曲です。それ以来、「勝利を呼ぶ応援歌」として、チャンスを迎えた場面でかき鳴らす定番になっています。

これまでに100曲を超えるオリジナル曲を制作

これまでに、応援曲とは別に歌用のオリジナル曲を作ってきました。平成12年には『オリジナル愛唱会』を立ち上げ、地元に着した曲づくり、活動を行っています。今年5月には、100曲の大台に乗り、その中から18曲を厳選した記念CDを制作しました。



今年6月に完成した記念CD

旧仁賀保町、にかほ市をイメージした曲で構成されたものです。これからも、地域に密着した曲づくりに励みながら、若い世代の発掘にも力を注いでいきたいと思っています。

ふるさと

地区紹介

Part 1 平沢地区 (仁賀保地域)

芹田/三森/鈴/平沢
琴浦/室沢/両前寺

秋田県は、鉄道が整備されるまで日本海の手廻りを通じて中央市場と結ばれていました。仁賀保地域沿岸に広がる平沢地区には、西北および西南の風によい平沢港と三森港が開かれ、米の積み出し、塩や綿、砂糖などを受け入れていました。いわゆる、北前船航路を支える港の一つで、上方(京都・大阪)市場と直接結ばれていました。

今回から2回シリーズで、平沢地区の7集落名の由来などを紹介します。



八幡神社

【平沢】平沢の語源は定かではありませんが、鳥海山からの泥流によって小丘陵と沢と川が形成された以降に命名されたと考えられています。仁賀保町史によ

ると平沢八幡神社の由緒を記した、宮司菊地定雄氏の遺稿が古いもので、これには延暦年間(坂上田村麻呂が蝦夷征伐に下ったとき、平沢の松田山八幡神社に戦勝を祈願したとあります。

【室沢】室沢村の発祥は定かではありませんが、天正文書に「むろの沢村」と書いてあり、江戸時代は室沢村と呼称され、仁賀保領と本荘六郷領の2つに分かれていた相給村でした。字「鴻ノ巣(現在の墓地公園付近)」には中世城館「鴻ノ巣館」があり、現在もその城跡が残っています。明治9年(1876)に平沢村に合併しました。

【琴浦】琴浦の由来は、外ヶ浦の佳名である琴ヶ浦からきたものといわれています。琴浦の産土神(熊野神社)は以前、鐘館の柏木に祭られていたと考えられています。明治9年(18



鈴分港からの臨島

現在の臨島付近に住居がありましたが、鳥海山の数多い噴火活動による陥没と侵食で、現在の海岸線になったのは、天保元年(1830)ころと考えられています。明治9年(1876)に平沢村に合併しました。

【両前寺】村名の由来は定かではありませんが、言い伝えによると、中世竜沢山両前寺という寺があったことから、寺号が村名になったといわれています。



76)に平沢村に合併しました。

【鈴】鈴村は、天正文書の知行方目録の中に「27石7斗4升4合鈴村」とあるのが初見です。

室町時代、鈴村は



仁賀保幼稚園 男の子・女の子(年長)



おともだちみんなで仁賀保幼稚園に小さな水族館をつくったよ。いろいろな色をつかってかわいいおさかなをひとりひとりえのぐでいろをぬったよ。みんなでちからをあわせてつくったから、ネイガーをこえるちえとちからがついたらいいな。

チビッコ美術館
じょうずにできた!